

2026年注目の天文現象

いよいよ新しい年のスタートです。2026年はどのような天文現象が起きるのでしょうか。今年は、レグルス食や皆既月食といった、月にまつわる天文現象が多そうです。今年注目の現象を紹介しましょう。

(画像は全て、StellaNavigator／アストローツを使用)

レグルス食

しし座の一等星レグルスを月が隠す、レグルス食。今年は3回起こります。

1回目は1月7日で、満月過ぎの月(月齢18)が深夜にレグルスに接近します。潜入は明縁から1時17分ごろに起こり、出現は暗縁から2時07分ごろです。月の欠けている側からの出現なので、暗闇からレグルスが突然ポツと出現するように見えます。 (時刻は大阪での場合。以下同じ)

2回目は3月2日で、満月直前の月(月齢13)が夜の見やすい時間にレグルスに接近します。潜入は暗縁から20時29分ごろに起こり、出現は明縁から21時23分ごろです。見やすい時間に起こるので、3回起こるレグルス食のうち、最もおススメしたい回になります。月の欠けはほぼ無いので、月への出入りの瞬間が分かりやすい食になります。

3回目は5月23日で、上弦の月が昼間にレグルスに接近します。潜入は暗縁から14時38分ごろに起こり、出現は明縁から15時25分ごろです。昼間ですから、月は見えますがレグルスは肉眼では見えず、食を見るには口径の大きな望遠鏡を使う必要があります。



なお、レグルスの他に、おうし座の一等星アルデバランやプレアデス星団、おとめ座の一等星スピカ、さそり座の一等星アンタレス、惑星などは白道(月の見かけの通り道)上にあるので、時々月によって隠されることがあります。

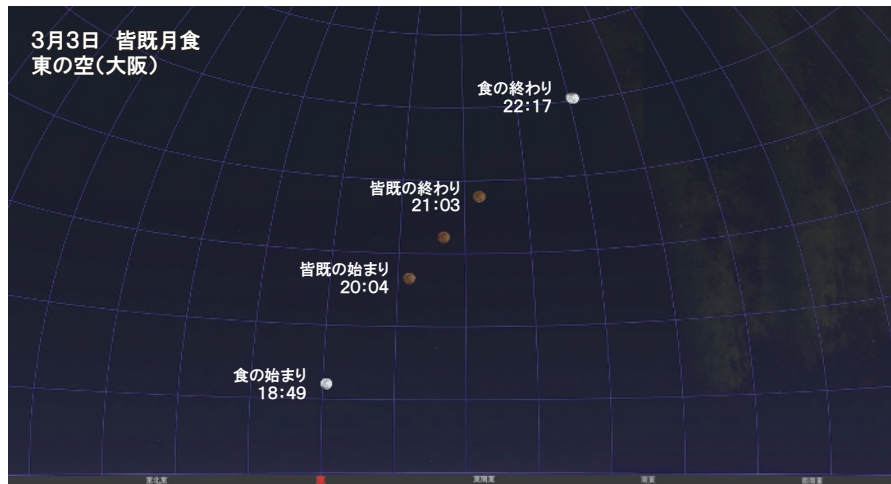
金星と木星の接近

6月10日の日没後、金星と木星が西の空で接近します。この日の日没時刻は19時11分、木星が沈む時刻が21時41分なので、2時間ほどの間、見ることが出来るでしょう。二つの天体の間の角度は約 1.7° と、腕を伸ばした時の指一本分くらい離れて見えます。夕方の西の空に、明るい惑星を探してみましょう。

皆既月食

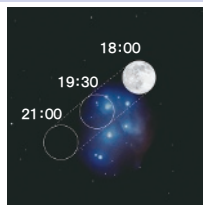
3月3日、日本全国で皆既月食が見られます。最大食分は1.156。食の始まりが18時49.8分、皆既の始まりが20時4.0分、皆既の終わりが21時3.4分、食の終わりが22時17.6分です。昇りかけの満月が東の空で欠け始め、南東の空で満月に戻ります。

夕方から始まり深夜までには終わるので、絶好の観察機会となります。もしカメラをお持ちの方は、一定時間ごとに写真を撮るのもオススメです。カメラの向きを決めて空の広い範囲を撮るか、月を拡大して追いかけてながら撮るか、挑戦してみてください。



プレアデス食

冬に見ごろを迎えるプレアデス星団(すばる)。11月24日の19時ごろに、満月によってプレアデス星団の星の一部が隠されます。満月の明るさもあり、肉眼では隠されていくプレアデス星団の星を見ることは難しいので、望遠鏡を使って観察してみましょう。



流星群の当たり年

毎年8月中旬に極大を迎えるペルセウス座流星群と、12月中旬に極大を迎えるふたご座流星群。

2026年のペルセウス座流星群の極大日付近は新月で月明かりはありません。また、ふたご座流星群の極大日付近は上弦の月で22時ごろには沈みます。

両方の流星群とも、月明かりに邪魔されず一晩中流星を見ることが出来そうです。

三田村 耕平(科学館学芸スタッフ)